

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301786		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「オークヒルズ」 A棟		
所在地	福島県郡山市富久山町八山田字南広谷20-4		
自己評価作成日	平成25年8月10日	評価結果市町村受理日	平成26年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成15年開設のグループホームであり、開設10年目となる。郡山市の住宅街の中に位置し、平屋だて二棟で開放的な空間であると共に、災害時の避難誘導がスムーズに行える利点がある。月に1回程度、地震や火災想定避難訓練を行っており、緊急時の対応が落ち着いて行えるよう繰り返し訓練を行い、反省点を次回に活かす取り組みを行っている。
 ・お客様の安全についてや状態変化に伴うミーティングを活発に行っており職員間での情報共有や現状に合わせたケアに努めている。
 ・2ヶ月に1度の運営推進会議にて、メンバーより地域交流についてのアドバイスを頂き、地域消防団との防災訓練や地域広報誌、行事等に活かしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 施設に対する地域の理解協力が得られ、防災訓練等には協力体制が構築されている。
 2. 湖山医療福祉グループ傘下の法人であり、職員は外部研修に積極的に参加して資質の向上を図り利用者支援に役立たせている。
 3. 運営推進会議やお客様会議、職員会議の意見も積極的に取り入れ、運営に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で話し合い地域密着型施設としての役割や意義を意識し理念を作成している。また、職員皆で共有できるよう、掲示し、職員皆で取り組んでいる。	ユニットごとの理念を職員の意見を基に毎年作成し事業所内に法人の理念と共に掲示している。職員間で共有し実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に参加し地区の総会などに参加させて頂き事業所について伝えている。また日常生活の中では回覧板を回したり、散歩等の際に挨拶を交わすなどの関わりを持っている。授業の一環で小学生が来ることや、地区の小学校の鼓笛パレードを見に行ったりもしている。	自治会に加入し総会や地域の行事等にも参加し事業所の理解に努めている。広報誌も地域向けを作成し回覧板で見てもらっている。回覧板は利用者と一緒に持参している。ボランティアの受け入れも積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域広報誌を定期的に作成し、回覧板で地域の方に見て頂いている。「グループホーム」の理解や認知症という病気を持つ高齢者の生き生きとした生活の様子等知って頂けるよう活動している。また実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、メンバーから率直な意見を頂き、行事の内容や防災訓練、地域広報誌等について改善を図り、サービスの向上に繋がっている。積極的な意見交換ができています。	運営推進会議は家族代表、町内会長、民生委員、行政からのメンバーで構成されている。定期的に行われている会議では、運営に関する報告などを行い委員から具体的な意見が多く出され、運営やサービス面に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護サービス相談員の方が月に2回事業所を訪問して下さり、お客様との会話や関わりを通じて気付きを伝えて頂くことでケアに生かしている。また、運営推進会議には介護サービス相談員や地域包括支援センターの方が委員として参加して下さっている。	運営推進会議の記録を毎回行政に持参しており、担当者とはコミュニケーションもとれている。また行政からも担当者が変わった場合など、訪問されることもある。行政との連携が図られ円滑な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行うことで、理解を深めている。またどのようなことが身体拘束に繋がるのか考え、職員間で指摘しあい拘束のないケアに努めている。玄関もテラスも出入りできる環境であり開放的である。	新人研修の他、職員全体の勉強会も行っている。身体拘束の定義や意味の理解に努め、日常対応の中で気づいた場合は、職員間で話し合いを行い、全員で共有し合い拘束のない支援をしている。玄関は日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行うことで理解を深めている。またスピーチロック等の不適切なケアがないかも互いに指摘しあい、虐待のないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の階層別研修を等して成年後見制度等について学ぶ機会を設けている。また、機会があるごとに管理者から職員へ説明を行い理解が深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居時に契約書や重要事項説明書を通して法人の方針やグループホームとしての方針の説明を十分に行い理解・同意を得ている。また介護保険法改定の際にもご家族様へ説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として、年に1回お客様アンケートを行いご家族様から率直な意見を頂き改善に向けた取り組みを行っている。また、お客様からは「お客様会議」を通して意見や要望を頂き、行事や毎日の食事、レクリエーション等に生かしている。	お客様アンケートの結果は施設内に掲示し、家族にも送付している。お客様会議では日常生活に関する意見も多く、事業所運営や利用者支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常の申し送りや職員会議時、また面接を通してスタッフから意見や要望を聴き対応している。必要時には法人の上司に報告対応している。	職員会議で出された意見や提案を運営面に活かしている。気づきカードも職員の提案で作成され、有効的に活用している。管理者と職員間のコミュニケーションも良く、今回の自己評価も全員で行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年に2回、業務目標の進捗状況や成果について個人面談を行っている。本人の目標に対する達成度と他職員からの評価を踏まえ、賞与に繋がるなどやりがいとなっている。また、職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせてグループ分けを行い「階層別研修」を法人内で行っている。研修を行うことで知識技術の向上に努めている。また、新人に対してプリセプター制を取り入れ丁寧な指導を行っている。今年度からは実務者研修も法人内で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での研修会や会議等で交流を図り、他事業所との情報の共有ができています。それを自事業所のケアの向上に繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査を行い、情報収集しそこから暫定ケアプランを作成しサービスの提供を行っている。 ご本人様の想いや今までの生活環境等について職員間で共有し関わりが持てるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の説明時や契約時に丁寧に説明を行うとともにご家族様の要望の聴き取りを行い、ケアプランに反映させている。面会時などにお客様の生活状況をお伝えし、不安の解消、要望の聴き取りに努めることで信頼関係づくりに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居のご相談があった際に介護保険のサービスについてお伝えしている。また、実態調査時にお客様やご家族様からの意見を参考に、今、お客様の望む生活は何かをカンファレンスで検討し、ケアプラン作成に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かしながら生活の中での役割をお客様に行って頂いている。また、昔のお話を伺いさまざまなことを教えて頂きながら日常の生活や行事に活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の日々のご様子や受診の報告を電話や面会時に行っており、近況が伝わるようにしている。また月に1回広報誌をお送りしている。誕生会やその他の行事などに参加をお願いし、一緒に過ごせる時間が持てるよう努めている。度々、面会して下さりご本人様のお好きな物を召し上がりながらゆっくりと過ごし不安がないよう共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通院していた病院に継続して通院介助を行うことで馴染みの人との関わりが継続できている。また、友人や知人の方が面会に来て下さった際にはゆっくりと過ごして頂けるよう努めている。	通院は以前からの病院を継続している。自宅の近所の方や友人などの訪問も多い。利用者は事業所の地域の方が多く、地域行事に参加し、昔なじみの方との交流もある。墓参りなどは家族と共に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で楽しく過ごせるよう配慮し、席の配置することで関わり合いが持っている。また、同じ趣味活動が共に行えるよう努めている。ソファで仲の良いお客様同士でカラオケを楽しむこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や病院に移られた後も職員が会いに行くなどしている。また、退居後のご様子をご家族様から連絡を頂く事もあり、必要に応じて相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様の担当職員を決め希望や意向の聴き取り、把握に努めケアプランに反映させている。また「お客様会議」にて希望・要望を伺ったり、日常の何気ない会話から聴かれる要望にも「気付きのカード」を使用し把握し、実現に努めている。	利用者毎のケアチェック表や気付きカードを活用したり、日頃の会話やお客様会議等での発言から本人の意向を把握したり、家族の来訪時には家族からの意向把握に努め、本人本位のケアサービスに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様本人やご家族様から、以前の生活のご様子やお好きだったもの、馴染みのもの等を伺い情報収集に努めている。サービス利用の経過等は介護支援専門員から情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成時には心身状態に関してアセスメントを行い、ご本人様の強みに着目してカンファレンス等で情報共有している。日々の変化に関しては申し送りや記録にて情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様から、意見や要望を聴きアセスメントやモニタリング・カンファレンスをチームで行い現状に即した介護計画作成に努めている。また、ご本人様の状態変化に合わせて随時ミーティングを行っている。	事業所独自のアセスメント・サービス計画検討用紙を作成し、それをもとに利用者、家族の意見を反映させ、利用者に対しては担当制をとっているが、利用者の情報は職員同士で共有し、利用者の現状に即した介護計画を作成し支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お客様のご様子や言動を個別に記録に残したり、毎日の申し送りやミーティングで職員間の情報共有を行っている。実践しながら気付いた点はカンファレンスにて検討・見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様、ご家族様の状況に応じて通院介助を行うなど必要な支援は柔軟に対応している。そうすることでお客様、ご家族様の安心に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に出展し、お客様と共に見に行ったり、地域の消防団の方に見に来て頂いて避難訓練を行いアドバイスを頂いたりし、安全で楽しみのある生活が送れる様支援している。社会福祉協議会を通してボランティアの方に来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望でかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。ご家族様と受診に行かれる際は日々のご様子がわかりやすいようお伝えしている。ご家族様が行けない場合は職員が代わりに同行し、受診後ご家族様へ報告している。状態によっては医師、ご家族の意向を踏まえ訪問診療にて対応している。	かかりつけ医により本人や家族の希望に添った受診や往診を継続している。通院介助の際の状況報告は互いに話し合い共有し、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の観察を密に行い、変化があった際は看護師の訪問時に報告しアドバイスを頂いている。状態変化があった際にはいつでも看護師に連絡し相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、面会に行ったり、ご家族様・医療機関と連絡を多くとり情報の共有に努めている。また必要時にはリハビリや食事時に同席させて頂くなど早期退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化・看取りの指針についての説明を行っている。また、必要な時期にはご家族様と話し合いを行い、医師や医療機関と相談・協力を頂き、ご本人様やご家族様にとって安心した対応が出来るようにチームで支援している。	入居時に事業所の指針を説明し、又、段階に応じて家族と話し合い、施設紹介、或いは今後の対応を医師や家族、事業所の関係者とで検討し、方針の統一化を図りながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救急救命講習に参加したり、緊急時の対応について勉強会を行うなどしている。緊急時の対応マニュアルを作成しておりマニュアルに沿って落ち着いて対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回程度地震や火災を想定した避難訓練を行っており、運営推進会議のメンバーと地域の消防団と訓練を年に1回実施している。備蓄品の管理も防災委員中心に行っている。緊急連絡網の訓練も行っている。	緊急連絡網の通報訓練や夜間想定を含む毎月違った設定での避難訓練や、地元消防団の参加、地域の協力も得て、職員は利用者を安全に誘導出来る様訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人で推進している「こやまケア」を各職員が意識しお客様と関わる事で年長者としての敬意を持って接し丁寧な声かけ対応が出来るよう努めており、職員間で互いに指摘し合っている。プライバシーポリシーや接遇についての勉強会も行っている。	個別ケアの勉強会やカンファレンスを重ね、人生の先輩者として、人格やプライバシーを損ねない様な対応を職員間で共有し、特にお声掛けには配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己選択をする機会がなくならないよう、団らんのお茶菓子や飲み物など小さなことでも選択肢を出すことで選んで頂く機会を作っている。ご本人様の希望は日常の会話から聴きだし実現できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはおまかに決まっているが、出来る限りおひとりお一人のその日の状態に応じてペースで過ごしていただけるよう努めている。休まれることが多くなったお客様は食事や水分摂取の時間をご本人様のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴前にご本人様と一緒に洋服を選び、本人らしいおしゃれができるよう支援している。長年好まれて着ている洋服が継続して着れるようご自宅から持って来て頂いたりし、大切に扱っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	献立にはお客様の希望を取り入れるようにし、調理や盛り付け、食器の片付けなどを共に行い、お客様と同じ食事を同じ空間で頂く事で楽しく、おいしく食事が召し上がれる様工夫している。また、畑で野菜と一緒に育て収穫しおいしく頂いている。	利用者と職員と一緒に食事の支度をするなど、共に味わい食卓を囲んでいる。日常の会話から好みを聞き献立に加えたり、庭の畑から野菜を収穫し季節感を取り入れ楽しんで貰う工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の献立は、デイサービスの管理栄養士に確認して頂きバランスの良い食事の提供に努めている。お一人おひとりの食量や水分摂取量の確認を行い、必要に応じてご本人様がお好きな物など補食を召し上がって頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い、ご本人様に出来るところは行って頂き、不足部分の介助を行っている。義歯洗浄剤を使用し、口腔内清潔に努めている。その日のお客様の状態に応じてうがいを行ってもらったり、ふき取りを行ったりしその時々に必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様一人ひとりの排泄量や排泄パターンの把握に努めている。それをもとにトイレ誘導の声掛け、介助を行うことでトイレでの排泄に努めている。排泄用品がご本人様に合う物を検討し不快なく過ごせるよう努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、担当職員だけでは無く、職員全員で共有しタイミングを見計らい、トイレ誘導の支援をしている。その結果、自らトイレへ行くとする意欲的な利用者が増え、排泄用品の使用が減り快適に過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳酸飲料を飲用し、その他にも牛乳や豆乳も飲んで頂いている。毎日排便の確認を行い、状態に応じて腹部マッサージを行っている。個別に体操を行い排便を促している。腸内環境改善の為に毎日ヨーグルトを召し上がって頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな予定があるが、その日のお客様の希望にあわせて入浴を行っている。お好みで入浴剤を選んで頂くなどし楽しく入浴できるよう努めている。ゆず湯や菖蒲湯などの季節の入浴も行っている。	一人ひとりの希望に添って体調に合わせて入浴している。拒否される利用者へは、理由を把握した上でタイミングを調整したり、お声掛けに配慮をしている。季節のゆず湯、菖蒲湯や温泉入浴剤などを用いて変わり湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活習慣を理解し、お客様のペースで休んで頂ける様している。日中の活動を増やし夜間ぐっすりとお眠できるよう努めている。寝具はご自宅で使用していたものを持ってきて頂いており、室温の調整も気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の勉強会や、月1回のお客様の内服薬の内容のテストを行っており理解を深めている。また、新しい強い薬が出た際は副作用等調べ職員間で周知している。また看護師とも連携し薬の注意点など伺っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様の得意な事や好きなことを把握して手伝いやレクエーションを行っている。毎日の生活の中でそれぞれの役割が生活の張りに繋がるよう努めており、出来る部分で役割を持って頂いている。また、気分転換の為水やり等外での活動も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の行事の際にはお客様の希望を伺い行き先を決めている。日常ではテラスや施設周辺の散歩などを行っている。また、地域の鼓笛パレードを見に行ったり、地域の文化祭に作品を出展し見に行っている。	家族や職員の協力を得て個別に対応している。その日の状態に合わせて、近所のスーパー、ケーキ屋、ファミリーレストラン、回転寿司などへ車で出掛け、気分転換を図っている。町内会の回覧板は職員と一緒にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様のご協力を頂き少額のお金をご自分で管理されている方もおり、散髪代などご自分でお支払する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望時や、ご家族様から電話があった際には、電話の支援を行っている。また、年賀状をお客様と書いてご家族にお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間となるよう、お客様と共に植物を育てたり、作成した作品や習字などの掲示を行い、お客様にとっても棟内掲示物を見るのが楽しみとなっている。清掃、整理整頓、臭いに関して、意識して改善に取り組んでいる。	利用者が作成した作品、習字、そして毎月の様子が窺えるお便りや季節に関係する飾りが掲示されている。台所からは、食欲をそそる良い匂いが漂っている家庭的な雰囲気の中で、穏やかに暮らしている。ソファや和室の場所は利用者が思い通りに過ごし、寛ぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	台所やソファ、和室などの場所を活用し、お一人でお好きな趣味活動を行う楽しむことや、仲の良いお客様とテレビを見て会話を楽しむなどの居場所の工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	入居前にご自宅で使用していた家具を持って来て頂いたり、ご家族様の写真を居室に飾ることで落ち着いて過ごせる居室づくりに努めている。 入居後は作成した作品や写真を飾ることで、居心地の良い居室づくりをともに行っている。	居室にはベット、整理ダンス、クローゼットが備わり、すっきりと整頓されている。家族の写真や馴染みの物を持ち込み、自分らしい居室、居心地が良い部屋作りを目指し、家族と相談し利用者が安心して快適に暮らせる様取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何が出来て何が出来ていないかを職員間で話し、安全に行えるように環境の工夫を行っている。また、お客様の状態が変わった場合は職員間でミーティングを行いその時の状態に合わせて対応を行っている。		